

けど、そういう中から選んでどうするか、すごい人が来ると思う。金だけでないですけどね。そのぐらいやっぱり糸魚川だけの範囲を見るのではなく、上越からも白馬、小谷からも相談に訪れるような形をぜひ、市長言われたように、ぜひ先進地探って、ぜひとも募集をかけていただきたいなど、こう思っております。

それと次、少子高齢化、少子化対策、これは先ほど岡山県の奈義町、これはいろいろな形で本に出てくるんですが、一番目にある全世代全員参加型の中でも仕事コンビニ、仕事コンビニでも出てくるんですが、仕事があるからこそ、子育て支援も手厚いと。子供がいっぱいおる。そん中で、子育て応援宣言を奈義町はやってるんですが、糸魚川市もいろいろやとるんですが、幅広い独自の施策の中で、託児・育児支援手当、高校等就労支援、いろいろな形で、就業支援ですね。それも含めて、ワクチン接種とか、ノロウイルスワクチン、いろいろな形で、昨日もありました不妊治療、妊娠したらいろいろな形も出てくる。手当、医療費助成、給付、保育園、幼稚園も含めて、預かり保育とか保育料、多子軽減とかいろいろ出てくるんですが、この辺も含めて、糸魚川市もうちょっと何か、子育て支援をやるんだから、何かを削るといえるか、そういう形も私は必要だと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり選択と集中という形になってきますと、やはりどこかを指すと全てできるものではございませんので、絞り込んだときには、少し遅れていく部分や後回しになる部分も出てくるものもあるかと思うわけでありますが、しかし、それが最優先という形になれば、また致し方ないことにならるかと思うわけがございますので、なるべく将来に禍根を残さないように、またつけを回さないように施策をつくりながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ少子化対策、本当に頑張っていたきたいと思っておりますし、もう一点が、DMO、これは本当に雪国観光圏へ行ってまいりましたが、糸魚川には観光地がないと言われました。それにぜひストーリー性をつくって、ターゲットを絞って、ブランディングもして、北アルプス連携でやっていただきたいと、こう思っています、一般質問を終わらせていただきます。

○議長（中村 実君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

次に、渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。〔17番 渡辺重雄君登壇〕

○17番（渡辺重雄君）

清政クラブの渡辺重雄でございます。

事前に通告いたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

1番目は、市勢の現状と新たな未来社会 S o c i e t y 5 . 0 への対応についてであります。

合併から15年、この間、世界情勢が目まぐるしく変化し、社会の不透明感が増す中、気候変動など自然現象も重なり、平穏な暮らしを維持することも難しい時代を迎えております。

これからの糸魚川市は、国が提唱する新たな未来社会である S o c i e t y 5 . 0 に対応して、A I 、 I o T 、 R P A などの活用で、市民に向けて安心・安全な暮らしの道筋を示し、課題を一つ一つ丁寧に解決していく必要があります。

そこで、今回は今後の新たな視点からの取組を期待し、目標とする都市像に込めた想い、そして将来指標を可能にするために、市勢の現状を踏まえ、今後の市政の進め方を伺います。

(1) 各種のランキングから見る糸魚川市の現状についてであります。

昨年度の全国各市町村の住みよさランキングや魅力度ランキングなどが、各種調査機関から発表されております。当市が上位にランクされている調査もありますが、実態としてどのように捉え、分析しているか伺います。

(2) 行政の仕組みと仕事の在り方についてであります。

各種の行政課題を解決するには、未来社会の機能を駆使しての行政運営が必要であり、そのための体制も必要と考えるが、現状の仕組み、仕事の在り方はこれでいいのか、改善、見直しなどについて伺います。

(3) 未来社会 S o c i e t y 5 . 0 への具体的な対応についてであります。

日本の再興戦略として、社会の様々なニーズにきめ細かに対応でき、生き生きと快適に暮らすことのできる社会、 S o c i e t y 5 . 0 の国の目標に対し、当市がどのように捉え、進めようとしているのか伺います。

2番目は、市民憲章、各種宣言の役割と推進についてであります。

昨年の新語・流行語大賞の年間大賞を受賞したのは、ラグビー日本代表チームの「ワンチーム」でした。どんな強豪チームでも選手たちの思い、心が1つにならなければチームとして機能しないということから、ヘッドコーチが掲げたテーマでした。

当市の市民憲章でも、「市民の心を1つにし、みんなで力を合わせる」という制定の趣旨、解説があります。

この市民憲章を初め、各種の宣言が市民の間に浸透し、ワンチームの醸成をはじめ、いろんな面で機能しているかどうか、社会的な役割と推進について伺います。

(1) 市民憲章についてであります。

平成20年に制定され、10年以上経過した現在、主に公共施設の入り口や会議室などに掲示されておりますが、市民の身近な存在として、市民の心構え、心のよりどころとなる市民憲章にまで成長しているのかどうか、今後の活用や普及の方法について伺います。

(2) その他の各種宣言や活動についてであります。

合併後、はつらつ健康都市宣言、生き生きスポーツ都市宣言、糸魚川市平和都市宣言、糸魚川地酒で乾杯宣言など宣言されておりますが、宣言は外部に対して広く表明することである

ことから、宣言によりどのような効果が生まれたか、また市民に定着しているか伺います。

(3) 市歌の制作と制定についてであります。

全国各地では市歌が制定され、愛唱されているところも多いことから、合併15年の節目に当市でも市歌を制定してはいかがでしょうか。市を描いた詞とイメージした曲で構成した市歌ができれば、一体性醸成はもとより糸魚川市の誇りにもなります。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、一概に言えない部分はあると承知しておりますが、これまで取り組んできた成果が現れているものと考えております。

2点目につきましては、AIやRPAなど新たなデジタル技術を積極的に活用し、自動化や省力化を図ることで、より少ない職員で効率的な事務を進める必要があると考えております。

3点目につきましては、官民それぞれで進めていく内容だと認識しておりますが、市として技術革新により、市民生活が豊かになることについては、積極的に取り組んでいきたいと考えております。

2番目の1点目につきましては、市民の心構えや心のよりどころとなる市民憲章は、当市にとって大変大切なものであり、先人が築き上げたふるさとをさらに発展させるため、市の行事等での唱和や次世代を担う子供たちへの普及活動を通じて、みんなに愛される住みよいまちづくりを目指してまいります。

2点目につきましては、平和の尊さを実感したり、地酒のよさを再確認したりと一定の効果があらわれたものと認識しており、今後もそれぞれの宣言の理念が、さらに深まっていくよう市民の皆様とともに進めてまいります。

3点目につきましては、現時点では制定を考えておりませんが、当市には、すばらしい地域資源やお互いを尊重し合う多様性を表現する、おまんたばやしをはじめ、相馬御風作詞の春よ来いや、カチューシャの唄、さらには親知らず子知らずや大糸線など、当地域にちなんだ名曲が数多くあることから、まずはこれらを活用し、一体性の醸成やPRに努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それでは、1番目の各種のランキングから見る糸魚川市の現状についてお伺いしたいと思います。

昨年の住みよきランキングで、全国812市区の中で32位という高い位置につけておりますけれども、今回のランクに関して再度お聞きしますが、どのような感想をお持ちでしょうか。

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

住みよさランキングで全国812の市がある中で、昨年より大幅に順位を上げているというところでもあります。これはやっぱり糸魚川市の取組というのが、評価されたというふうに思っておりますけれども、ただ、これで満足しては駄目だなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この調査ランキングを見ますと、安心度で77位、利便度で266位、快適度で173位、富裕度で365位、この5項目の総合ランキングで32位ということなんですけれども、この各項目ごとに関して、何か特別ご感想をお持ちでありましたら、お伺いしたいと思います。

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

それぞれこのランキングに当たっては、いろんなやっぱり分野の要素があるというふうに思っております。この安心度、利便度、快適度、富裕度と、この指標なんですけど、ランクを上げた1つの要因とすれば、前年と指標のとり方がちょっと変わってるというところが特徴なのかなというふうに思っております。その中で、糸魚川市がどのように評価をされているのかなというところの分析になりますけれども、1つは安心度、昨年は565位から議員の言われた77位と、非常にジャンプアップして、その分析というのは、特に子供の医療費の助成、ゼロから18まで、非常に子育てのところに充実している。こういった評価が入ったというのが、高く順位を上げている要因かなというふうに思っておりますし、利便度では、654位から260位、こちらも非常にジャンプアップしております。その要因等分析していきますと、新たに人口当たりの飲食店の数というのも、こういうふうに加わってきますので、具体的なちょっと、ところは言えないんですけども、そこら辺の順位というのが加わったのが成果かなというふうに思っておりますし、快適度につきましても569位から173位と非常に大きくなっております。ここでは指標で何かというのは、ちょっと私も非常に興味がありました。その中で見ていきますと、1人当たりの財政規模、これが非常に大きい。昨年は、特に合併以来、307億という非常に大きな予算だということもありますので、やっぱり1人当たりの財政支出額が大きいということが原因かなというふうに思います。富裕度は、さほど変わらないんですが、468位から362位、持ち家比率が高いというところでランクが上がってるのかなと。そんな要素を分析しているところでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今の分析のとおりかというふうにも思っておるわけですが、もう少しバランスがとれれば、申し分ないなというふうな気がいたしました。それと、特に住んでる住民、市民にとりましては、やはり今度は、富裕度を高めないとということで、これは満足度をこれからは高めるということになる、富裕度というのはかなり影響しますので、ここに力を入れていただきたい、そういうふう考えてるんですが、この辺はいかがですか。

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えいたします。

確かに市民の皆さんの実感というのは、ランクがこうだから実感としてどうだということがあるのかなと思うんですけど、やっぱり富裕度というのが、豊かさというのは誰でもやっぱり共通してくるところだと思うんですね。やっぱりここが上がってくると、やっぱり豊かな町だというふうに思いますので、財政力指数、税収を上げていくとか、そういったところが重要になってくると思いますし、事業所、経済的なところの売上げですとか、住宅の地価ですとか、そういったところの指標が上がっていくと、やはり豊かさというのは感じられるのかなと思いますので、今、人口減少社会になってきて、地域経済のほう厳しい局面になってくるかと思うんですけども、少しでもやっぱり市民の皆さんが豊かだなど、こう思えるようなところを取り組んでいかないと、上がっていかないのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この調査のほかに、私は地域ブランド総合研究所の地域ブランド調査というのを、時々取り寄せて見ているんです。こういう冊子化もされておるんですけども、こちらの調査のランクにつきましても、少し紹介して、お伺いしてみたいと思うんですが、先ほど申し上げました東洋経済のランキングと、このブランド総合研究所のランキングの違いですけども、東洋経済は各種のデータを数値化して総合評価の偏差値を出しているわけですけども、この総合研究所は全国1,047市区町村の住民のアンケート調査によるものなんですね。有効回収数が、3万1,369人ということであります。

この総合研究所の糸魚川市のランキングなんですけども、まず認知度は全国で285位、魅力度は331位、情報接触度は274位、観光意欲度が232位、住居意欲度が304位となっております。繰り返しますと、まず認知度が全国で285位、魅力度は331位、情報接触度は274位、観光意欲度が232位、住居意欲度が304位となっておりますね。こちらのランキングに関しては、どのように感じますか、今言ってしまうのはちょっと無理もあるかもしれませんが、お願いしたいと思います。

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

地域ブランド調査につきましては、今、議員からいろいろお聞かせいただきまして、大変ありがたいというふうに思っております。その中でも指標が、先ほどの住みよきランキング812なんです、今度は1,000ですね。プラス都道府県が47なので、実質市でいきますと今度は町、村も入れて1,000になってもうちょっとワイドになったと。その中でやっぱりなかなか5つの指標の中で200番台、それから300番台というところですので、1,000でいえば、なかなかいい線で推移しているんじゃないかなというふうな感想であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今おっしゃるとおり評価を上・中・下の3ランクで考えてみますと、新潟県ではやっぱり上位ですね。全国では上の下というところかなというふうに思うんですが、東洋経済の総合評価はともかくとして、このブランド総合研究所の外から見た評価の場合、各項目ともブランド力がかなり評価に影響してるなというふうに感じているところです。

最近、当市におきましても、シティプロモーションとかブランド力強化に力を入れてるわけですが、この辺を含めて手応えというのは、どういうふうに感じているか、お伺いしたいと思います。

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

この調査、ブランド総合研究所の調査の中で、一番私の個人的な意見になってしまうかもしれませんが、認知度とやっぱり魅力度というところの視点だと思うんですね。認知度はやっぱりいかに知られているか、それと魅力というのは、よくいろいろ魅力、糸魚川の魅力って何だと、こう聞かれると思うんですけど、魅力って非常に難しい、言葉で言うのは簡単なんですけども、その人それぞれによってやっぱり価値観が違おうと思うんですね。この魅力度というのが高いというのは、それだけやっぱりいろんなここへ、糸魚川の地へ運んで体験ができる、いい価値観があるというふうにちょっと捉えていきますと、県内でいきますとやっぱりいずれにしても10位以内という位置に入ってますので、やっぱり観光的な面でのポテンシャルというのは、まだあるのかなというふうに感じております。このブランドに合わせて、シティプロモーションでもこういったブランド力の調査というのをやっておりまして、昨年、石のまちプロジェクトということで、立ち上げておるんですが、こういった情報の発信の成果、特にフォッサマグナミュージアムを使った石の鑑定ですとか、あと、民間の市民の団体の皆さんからもこうやって石のまちを使った広がりも出てきておりますので、やっぱり1つの切り口として、魅力を高めていくという効果はあるのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

先日、雪国観光圏の事務局で、上越沿線の観光戦略等を聞いてまいりました。この観光圏では、ブランディング力を強化する。これに的を絞って活動してるわけなんですけども、10年ぐらいたつんですが、かなり実績を上げてるといふうなことです。極端なことを言いますと、この観光圏では、イベントを一切やらないといふうなことも伺いました。そのかわり、毎月の戦略会議、それから7つのワーキンググループの活動、これ非常に多彩な活動を展開しておられました。大嶋商工観光課長も同席されましたので、どのように感じられたか、少しお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

雪国観光圏につきましては、民間主導型の組織でありまして、雪国文化という共通するブランドコンセプトを基にしまして、3県7市町村で広域観光連携を行っておられました。それで、今言われたようにブランド力、ブランドをわかりやすく見せておりまして、例えばサクラクオリティ制度でありますとか、雪国A級グルメなどの認証制度などを使いまして、官民それぞれの役割で事業を推進する体制が整っているといふうに感じたところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

どちらかといいますと、どこでもそうなんですけど、行政、観光協会、商工会議所、商工会、これはイベント重視にどうしてもなりがちなんです。それも大事なんですけども、その効果のほどは、どれぐらいかというようなことで、集客というのはよく見えるんですけども、そのほかの分析というのが弱いというか、どうなってるかというのは、曖昧にどうしてもなりがちになる。大事なのは、各組織が目的どおり動いてるのか。雪国観光圏の例を申し上げれば、各種会議が結構頻繁に開かれてるんですけども、出席したかどうかという固有名を内容と同時に公表してるんですけども、そういう非常に本気度が感じられた一面も見受けてきましたんですけども、大嶋課長、この辺どう感じましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今言われましたように、そこに参画されておる民間事業者の方も片手間で参加するのではなくて、本当にやる気を持って参加されてるといふうに思っておりますし、前段言われましたイベントのためのイベントになってはならないということで、それが個店の売上げにどう結びつけていくかということを大事にされているとか、あと、あえて宣伝をせずに口コミによる集客を図って、またリピーターの獲得につなげていくという言葉が印象的でした。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

毎年様々な機関から発表されるランキングなんですけども、糸魚川市の位置とといいますか、確認するには非常に参考になりますし、何よりも全国に公開されておるわけです。いろんな意味で発信され、非常にわかりやすい数値にもなってるわけですので、市としましては、さらにランキングとランキングをつなぎ合わせて今後の政策に生かしてほしいと思いますが、市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々もやはりいろんな手を打ってまいってきております。それがどのような効果につながっているかというのは、やっぱり一番心配する点でもあり、気にしておる部分がございます。そのようなことが、そういった数値を見ることによって、またどのように進めていけばいいのかというところにつなげていかなくはないかなんかと思っております。そういった評価の内容について、しっかり分析しながら取り組んでいきたいと思っております。

○議長（中村 実君）

暫時休憩します。50分まで暫時休憩いたします。

〈午後1時41分 休憩〉

〈午後1時50分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。それでは、ランキングの関係につきまして、年間のランキングということでは、このほかに新潟県の100の指標、これも毎年発表されとるわけなんですけども、この100の指標に関して昨年のデータ、全体とといいますか、ご覧になって、特別感想をお持ちでしたら伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

新潟県の100の指標でありますけども、大きく分けて8つの項目だと思っております。いろんな自然、人口規模ですとか、あと経済や労働、それから農林水産業、それから生活環境、防災安全、福祉・医療、教育、文化、財政と、全般にわたって指標であるというふうに思っております。それで県内ですので、これは20市だけではなくて、市町村を入れた30市町村の状況を全体的に見るという指標なのかなというふうに思っております。これを見ていきますと糸魚川市は、これは100の項目がありますけども、ちょっと順位を全ての項目でランキングしてみますと、大体30の市町村の中でも大体真ん中辺に今は位置しているのかなというところが見えてくる場所があります。

ただ、ここからは逆説な言い方になってしまいますが、今後は、今は真ん中なんですけど、これから人口減少が進んでまいります。当然、財源の確保、今度は職員、人材の確保、そういった課題もある中で、今の行政の仕組み、実際の事業、これをいかに業務改善を含めて、いかに効率的に進めながら今の現状をどうやって維持していかなければいけないのかなというふうに、逆に改めて中央にだけに、今の水準をどうやって業務改善を図りながら、効率的に進んでいけるのかなというのが、私が見た感想であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今、課長おっしゃるように、この100の指標は、さらに身近なもののランキングを示しておるわけでございますので、おっしゃるとおりかなというふうに思っております。

それでは、2番目の行政の仕組みと仕事の在り方についてでありますけども、合併から15年ですけども、合併後の職員の推移、概算で教えていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

合併時の職員数は、684名でした。15年後、来年度、今度の4月1日になりますけども、今現在508人を予定しておりますので176人の減、率にしまして25.7%減少ということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

現在の職員数なんですけども、この定員適正化計画に照らしたときに、この辺、適正に推移してきたというふうに考えてよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、508人というのは、定員適正化計画より少ない数字ということで、基本的には適正化計画の範囲の中で職員の数を確保しているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

私もこの計画の、平成28年から令和2年度までの5カ年を見ると、計画の最終の、今から1年後の令和3年4月1日の目標値が、正職員510人というふうに書いてあるんで、今おっしゃるように508というふうなことからすると非常に目標値がきちっとクリアされてるかなというふうに思うんですが、それと同時に、この中で5年間の人件費の総削減目標値が、10億円というふうに記載されておるんですけども、この辺の達成というのは、大丈夫なんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

適正化計画の中でも金額等を出しているわけですけども、おおむねこの範囲、ただ人事院勧告等ありますので、若干ぶれはありますけども、おおむねということであれば、その範囲の中で推移しているというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

そもそもこの定員の目標値の決め方なんですけども、これ見るとなかなか難しい決め方になってるようなんですけど、これ方式というのはいろいろあるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

定員適正化計画の中にも幾つか算出する根拠があるという中で、総務省が示している指標を使って、今回のはつくらせていただいているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

私、これの計算式を見てみとるんですが、一番我々が分かりやすいというのは、本来は事務量の算定方式といたしますか、実際の事務量がどれぐらいあるかというのが算定できれば一番分かりやすいんですけども、ほかの類似団体の例を見たりしたのを加味して、数値を設定するというようなところもあるみたいですし、その辺はともかくとして、なかなか難しいなというふうに感ずるわけです。

それからもう一つ、正職員の数はきちっと予定どおりに動いてるかと思うんですけども、ある一面では、この減ったほうを再任用職員であったりとか、あるいは臨時職員、どちらかというところカバーしてんじゃないかと思われるようなところも、実はあるわけなんですけど、来年度からまた会計年度任用職員という名称の形にもなるかと思うんですけど、こういう体質というのは当面続くというふうなことで考えてよろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

臨時職員といった形は、合併後増えております。この増えた理由は、一般的な事務の補助という方はほとんど変わらないんですが、教育補助員であったり、保育士であったり、いわゆる行政サービスに直結する方の雇用を増やしているということでもあります。いずれにしましても行政課題に応じた職員の対応といったものを今後も進めてまいりたいというように思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今ほどもちょっと説明はありましたけども、問題は、合併から今まで、この間、人口が15年間で約8,000人減少してると。この人口減というのは、仕事量にどのような実際、影響があるのかどうかというふうなことなんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

この間、人口が8,000人ほど減っているわけですけども、業務量はどうかということでもありますけども、この15年間で見ますと新しい行政課題というものが生まれて、介護であるとか高齢者への対応とか、あるいは児童福祉への対応といったことで、新たなサービス需要が増えております。また、新潟県からの権限移譲というのも進んでおりますので、事務量としては減ってるというよりも、増えてるというように認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今、課長おっしゃるとおりだと思うんですね。国は、むしろ人口が減っても事務量が増えるという認識ですよ。極端なことをいうと倍くらい、いわゆる事務量は増えていくんじゃないかという懸念をいたしておるわけですが、そこで、このSociety 5.0社会のスマート自治体というところで、今、仕事の仕方を抜本的に見直す必要があるというふうに国は言ってるんですけども、この辺の指摘に関しましては、どのように受けとめていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

総務省が2018年に自治体戦略2040構想研究会の報告というものをまとめております。その中で半分の職員数でも担うべき機能が発揮される自治体を目指すべきだといったことを言っております。そのためには何をしていけばいいかという指針を出しておりますが、そういったものを参考にしながら、半数というのが実現可能かどうかわかりませんが、そういった方向の中で進めていかなければならないというように認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

おっしゃるとおりスマート自治体の体制、一言でいうと人口が減少しても自治体が持続可能な行政サービスの提供をというふうなことで、特に住民福祉の水準を維持してもらわなきゃならないというふうなことなんです。そのためのスマート自治体の目指すべき姿、これで職員は職員でなければできない、より価値のある業務に力を注ぐべきだということから、AIとかIoTとかRPAなどを使った行政が必要になるというふうに言ってるんですけども、そのための体制への転換を求めているんですけども、じゃあ具体的にどうこれから考えればいいのかということなんです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

具体的にということですが、RPAでいいますと、現在RPAの取組を実際進めております。一昨年度から庁内で勉強会を開いたり、職員が先進地事例を視察したりしております。

昨年の暮れなんですけども、じゃあ実証実験をしてみようということで、1つの業務についてRPAを使った業務を実験的に行いました。導入前、90時間かかっていた仕事が、導入後4時間と

ということで、86時間減少しました。費用につきましても基本的には半分ぐらいで済んだということであり、これを踏まえまして、庁内で再度勉強会を開いて、各課でどんなことができるんだということで、業務の洗い出しを行いまして、50業務が出ております。この50業務につきましまして、今後、具体的にやれるもの、やらないもの、やれるものといったような形で、取捨選択する中で進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

既に効果が現れているというふうなことで、非常にいい感じかなと思うんですが、特に心配なのが、この行政というのは平均3年ぐらいで異動されるというふうなことで、そのためにも、かなり浸透するまでは、専門部署とか全課横断的なRPAのプロジェクトチームをつくるとか、もう少し工夫が必要ではないかなという気もするんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、私ども上越市、妙高市、糸魚川市と3市でこの取組について勉強会を開いております。そうした情報交換の中で妙高市では、スマートシティ推進プロジェクトチームをつくったり、あるいは上越市では、これまで総務課であったものをほかの課に動かすといったような取組を進めておりますが、糸魚川市としては、現段階では今の体制の中、今、庁内勉強会とか庁内の検討会とか、いろんなものをつくる中で情報の共有が図られております。ということで、ここで進めてまいりたいと思っておりますが、議員ご指摘のように状況を見ながら新たな組織が必要だということになれば、そういったものをつくる中で進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

国は、スマート自治体を実現するための方策として、先ほどから言ってるAI、IoT、RPA等のICTの活用を言ってるわけですが、国からは具体的にどのような方策といいますか情報がもたらされてるのかどうか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

国からは具体的には、デジタルガバメント実行計画、あるいはスマート自治体研究会報告書、先

ほどもご説明いたしました、これによってICT導入による業務効率化の推進が示されておりまして、国による説明会や新潟県を通じてメールでの情報提供を受けているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

特に今後のRPA導入の手順といいますか、少し整理した考え、先ほども述べられてはあったんですが、少し整理した考えというのをお聞きしたいと思うんですけども。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

基本的には、国の考えの中で市としてどうやって進めていくかを整理して考えていかなければならないと思いますが、RPAにしてもAIにしても具体的な道筋と申しますか、具体的にどう取り組むかということにつきまして、徐々にですが形が見えてまいりましたので、それを具体的に落とし込みながら進めていくといった形の中で進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今まで経験したことのない課題や取組はあると思うんですけど、その点、課題はいろいろあると思いますが、多くの自治体では、自治体の現場でICTを活用するための必要な人材が不足していると。簡単に言えば何から取り組めばいいのか、それすらもちょっと入り口の段階でよくわからなくてストップしてるケースが多いというふうなことを総務省、こないだ少し研修させていただいたときにそういうお話がありました。この人材といった点では、糸魚川市はどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

議会の中でも外部人材の登用といった話を、ご意見を頂戴してるとこなんですけども、私どものこの取組の中では、総務省の地域情報化アドバイザー制度を使いまして、外からアドバイスをいただいております。具体的には、平成26年度から毎年アドバイザーに来ていただきまして、電算システムの最適化とか、システムの更新事業であったり、情報セキュリティーをどうやってやればいいのかといったアドバイスいただいております。

先ほどのRPA、AIにしても、ほかの先進事例もお聞きしております。課題もお聞きしております。それから、自治体の規模によって取り組めるものと取り組めないものといったものもありま

すので、そのあたりをお聞きする中で今進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

このRPAに関して言えば、総務省は地域アドバイザー派遣制度というのを設けていて、いわゆる年3回まで総務省で対応できるというふうな話もお聞きしてきたんですが、この平成2年度に向けて、こういう制度を活用していくという考え方は持っていらっしゃるわけですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

平成26年度からこの制度を使わせていただいておりますが、非常に効果があるし、ほかの事例を具体的にお聞きすることができるし、さらに具体的な取組へつながるということを感じておりますので、来年度も引き続き、この制度を活用しながらICTに向けた取組を進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、RPA導入に関してですけれども、ポイントは事前の業務分析を行って、自動化に適した業務を選択できる、選択することが必要だというふうな話もお聞きしたんですが、この辺のところはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

やはり人口規模、自治体の規模によって取り組んで費用対効果のあるものと、ないものというのがあると思います。よく保育所の入所を自動的にやるというようなシステムもありますけれども、糸魚川市では、その導入のコストを考えますと、現状のままのほうがいいといった業務がありますし、大量に処理をするもの、先ほど90時間が4時間になったといったお話もさせていただきましたけれども、そういった業務もありますので、取捨選択する中で、費用対効果を考えながら取り組んでまいりたいというように思います。

訂正をお願いいたします。

先ほど上越市も担当部署が変わると申し上げましたけれども、その後の検討の中で担当部署は変わらないということですので、訂正させていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

先ほど事前の業務分析が必要だというふうなことでお話しさせてもらったんですが、現在、職員の皆さん、デスクには1人1台ですか、パソコンが置かれてると思うんですが、実際にこのパソコンの処理の実態といいますか、各人のアクセス履歴などをとって、どんな仕事にどんな利用頻度で使われてるか、この辺もできればきちとした基本的な調査も必要になってくるんじゃないかと思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

現在、情報資産管理システムというものを導入しております、庁内の全パソコンの動きを把握しております。具体的には、どのパソコンが、いつ誰によって何の操作を行ったかを24時間365日監視・記録して、必要に応じてそのデータの活用について検討してまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

おっしゃるように前準備として作業の標準化等も必要になってくるんですが、現時点でかなり全国の自治体でのRPA導入の状況というのかなり見えてきたんじゃないかなというふうに思うんですが。当市として容易に導入できそうな業務の処理、先ほど課長の話ですと全庁調査して、取り組めるものは見えてきているというふうなお話でしたんですが、その辺具体的にどんなものに取り組みたいか、1、2ちょっと紹介していただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

来年度3業務ぐらいやっていきたいと思っておりますが、1つは臨時職員の賃金の処理、もう1つ、入札参加資格登録入力といったものを今現在、想定しております。臨時職員の処理の関係でいきますと、今、年間処理時間が350時間、それから入札の関係は251時間といった処理時間を把握しておりますので、これがどう変わっていくかということをやりながら、取り組んでまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

RPAの場合は、ソフトとソフトの間のデータ処理が容易に行える仕組みというふうにも言えるんですけども、非常に効果が期待できるわけですが、私ら議員側からの立場で見ると、手間が省けるということと同時に、各種のデータの組み合わせによりまして、政策に生かせる分析ができると。市長サイドで考えれば、各業務の実態がすぐに見えるというふうなことで、非常に政策が打ちやすくなるんじゃないかなということに期待してるんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

その辺りがまさにSociety 5.0だというように思っております。いかにそういったデータを組み合わせながら、人間が今まで考えたもの、情報処理をするものを機械に置き換えて、人間は本来やるべきもっと高度な企画力といったものに、政策・立案といったとこに進めていかなければならないと思っておりますので、そういった方向の中で進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

AIに関してですけども、導入されている実態なんかをちょっと見てみますと、機能別で考えると、主なもので音声認識システム、これは一部当市でも活用されてるというお話でございますし、それからもう一つ、チャットボットという応答システム、これは会話シミュレーションを行うプログラムというふうなことで、これもどちらかというところ糸魚川市でも非常に有効な活用方法があるんじゃないかなというふうな気がいたしておるんですけども、ぜひ検討していただきたいというふうに思っております。

次に移りたいと思います。

市民憲章についてであります。制定したときはどのような形の普及を考えていたのかどうかというふうなことで、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

制定時におきましては、児童生徒をはじめ、多くの市民の皆さんに当市の自然資源、あるいは地域固有の伝統文化を認識してもらいながら、市町合併後の一体感の醸成を図ることを目的に、心のよりどころとなる市民憲章、さらには市の木、市の花、市の鳥、市の石を選定したところであります。

その取組の一環としまして、公共施設への看板やパネルの設置のほか、中学校1年生へオリジナルクリアファイルの配付を毎年、今、行っているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

広報紙等でも時折見るんですけども、今までどんなスタイルで、どれくらい掲載されているのかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

制定当時には、広報いといがわで、当然のことながら掲載させていただいたほか、毎年、今、秋にですが、市内の協力団体により実施していますササユリの植えつけの様子や案内等を掲載させていただいてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、年間計画的な推進といいますか、普及の在り方を整備する必要もあるのではないかと思うんですが、その辺はもう整備されているということよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今年度から来年度にかけて、新しい施設ができます。新しい施設には、看板やパネルの設置を行いたいと思っておりますし、先ほど申しました中学校1年生に対するクリアファイル配付といったものを引き続き、やっております。

また、昨年度ですが、市の木の普及促進を図ろうと市民憲章のパネルの下のところに市の木、市の花、市の鳥、市の石のカラーの写真を付け加えまして、より身近に感じていただくような取組をしてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

実際に市内で市民憲章を定期的に唱和したり、また、内容を広げて、各種活動に活用しているとい

う機関とか団体、ございましたら、情報つかんでましたらお聞かせいただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

まず、行政内部ということでありまして、今年から市長の指示によりまして、部・課長会議が終わると、今の市民憲章の唱和をしているところであります。このほか各課等でも朝礼のときに市民憲章の唱和をしております。

また、教育委員会の仕事始めの式等によって、定期的に唱和を行っているところですが、民間の団体等につきましては、まだまだといったところでありますので、今どうやってやればいいのかということで、課内でもアイデア出しをしておりますし、今後、庁内全職員に声をかける中で、どうやってやればいいのかといったことを募ってまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

今お聞きしまして、市の幹部の皆さんだけかと思ったら、各課にもおろして、活動に生かしてるというふうなことであれば非常に心強いといいますか、意義があるなというふうに思っております。

この市民憲章は、「何々しましょう」という呼びかけ型でなくて、「します」と言い切ってるわけですから、これはやっぱり市民主体の憲章だというふうなことになるならば、市民主体の憲章として機能させるということが大事になるんですが、その辺の仕掛けというところまでは行ってないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

来年度以降の取組ということになりますけれども、市民の皆さんへの文書とか、あるいは封筒、今も1種類だけ窓あき封筒に書かせていただいているんですけども、そういったこの掲載をより広くしていきたいと考えておりますし、幼稚園児、保育園児、小学校低学年についても、例えば塗り絵といったような手段を使う中でやっていきたいということを考えてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

かなりの部分で考えもお聞きしましたし、ぜひそのように進めていただきたいということと、ほとんどのところ、推進協議会みたいなのをつくられてるんです。専用の広報紙を発行したり、また、

優良実践者にも表彰したり、作文とか絵のコンクールを実施したり、非常に楽しんで活用してるといいますか、それから、何よりも市民が暗唱していると、すらすら唱和できるというようなことで、推進協議会の設置というのは非常に有効かなというような気がするんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ご提言の推進協議会というのも1つの方法だと思いますが、一方で、例えばチーム糸魚川とか各種会議があります。こうした中で、どうやってこれをやっていけばいいかということもありますんで、ご意見も踏まえながら、より一体感の醸成は、まさにお話にありましたワンチームになるような取組を進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この推進協議会をつくることができれば、行政がそんなに手をかけなくても自主活動、元来この自主活動をしていただくタイプのものだというふうにも思います。市長が、市の幹部に声をかけて、職員の唱和等にまで結びついてるというふうなことなんですが、市長いかがですか、市民に推進協議会なりを通じて、その実践活動を呼びかけていただくということについては。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

推進活動については、やはりどこかで力を入れていかなくはいけないんだろうと思うわけでございますので、その辺を勘案しながら、組織をつくれればいいのか、また、いろいろ会議の中に冒頭、皆さんにお願いして、自主的に広まっていけばいいのか、その辺もまた協議しながら取り組んでいきたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

それから、今年度の市の予算を見ますと、市民憲章等推進事業の予算が33万6,000円、この予算でどんな推進を描いて、実践しているのかどうか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今年度につきましては、新中学校1年生の配付用のクリアファイルの製作とササユリの球根の購入費が、主なものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この市民憲章、総合計画のトップページにも位置づけしてるわけですね。この理念が各事業に関係してるというふうにも考えてもいいわけですが、そういった面からすると、やっぱりそのままでも何ら差し支えないということになるかもしれませんが、やっぱり大事にしたいなというふうに思うんですが、繰り返しになりますが、ぜひその辺考えいただきたい、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

熱い激励を頂戴いたしました。ぜひまさに意識の根幹だということで、さらなる事業の拡大、取組を進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

2番目の各種宣言や活動についてであります。まず、この各種宣言の宣言に至った背景、お伺いしたいと思います。はつらつ健康都市宣言、生き生きスポーツ都市宣言、糸魚川市平和都市宣言、糸魚川地酒で乾杯宣言ありますけどいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

宣言につきましては、市民の幸せは、一人一人の市民が心身ともに健康であることから始まり、健康であってこそ活力や生きがい生まれるという考えのもと、合併前の旧糸魚川市で行っております。合併後におきましても、その理念、精神を引き継いで、改めて新市として、はつらつ健康都市宣言を行ったものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えさせていただきます。

生き生きスポーツ都市宣言につきましては、市民一人一人が生涯にわたって、いつでもどこでもスポーツに関心を持ち、生涯を生き生きと過ごすことの上で、極めて大きな意義を持つことから、市民スポーツの振興をさらに推進するために宣言を行ったものであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

平和都市宣言につきましては、平成19年の6月に宣言、制定したものであります。この前の頃、この時代の頃でありますけれども、北朝鮮の核問題、あるいは国民保護計画が策定中だといった中で、非核平和に対する意識の高まりの中で、いろいろな議会等のご意見を踏まえる中で、制定したというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

糸魚川地酒で乾杯宣言でございますが、北陸新幹線開業の1年前に、地酒の魅力発信と交流人口の拡大を目指して、当時の実行委員会と市と観光協会の連名により行ったものでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございます。このはつらつ都市宣言ですか、健康都市宣言、宣言文にあるこの4項目に関してでありますけれども、具体的に取り組むための戦略というようなものは、立てられてるのかどうか、お聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

市民の健康づくりの推進につきましては、健康いといがわ21に基づき、取組を進めております。計画におきましては、栄養、食生活、運動、生活習慣など6つの分野で目標を掲げ、それに向けた施策事業を位置づけて取り組んでおるものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

わかりやすいところで、この内容的にはどの辺の指標を持ってはつらつ度を判断してるのかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

第2次健康いといがわ21におきましては、健康寿命の延伸というのを大きな目標として取り組んでおります。はつらつとした生活については、健康であるということが大前提でありますので、健康寿命というのは、はつらつを示す指標になるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ちょっとスタイルが違いますが、地酒で乾杯宣言、糸魚川市へおいでいただいた方、あるいは市内での集会の際に地酒をお使いくださいというふうなことは、理解しとるわけですが、実際に効果はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

懇親会のときに地酒にかかっている紙の蓋でございますけども、平成26年から令和元年までで、計で10万2,000枚を作成しているというふうにお聞きしております。全体的に見ますと酒蔵がある糸魚川地域では、かなり浸透してきておりますが、能生地域、青海地域では、まだまだ力を入れていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

そうすると、こちらの活動というのは、どこが主体になって続けておられるのかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

この乾杯宣言をしたときにつきましては、先ほど申しました糸魚川地酒の魅力発信実行委員会がございまして、ここと市と観光協会が連名で乾杯宣言を行ったわけですが、この実行委員会が発展的解消をいたしまして、現在は糸魚川五醸の会が引き継いで活動に取り組んでおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

このほかに、おみちようプロジェクトをはじめ、プロジェクトという名のものや、いろんな市民と一体になってする取組なんかもあるんですけども、一部の取組に、若干言い方悪いんですが、尻すぼみになってるんじゃないかなというような、忘れかけてるようなものもあるかもしれません。いいものはやっぱり残していただきたいですし、また改善していただきたいと思うんで、生きた取組にぜひしていただきたいというふうをお願いしたいと思いますが、もし何か、おみちようプロジェクト等について、ご感想があればお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

おみちようプロジェクトに関しましては、新幹線開業を機に、糸魚川市に来ていただけるお客様におもてなしの気持ちを込めて接することで、また糸魚川市をどんどんまた何回も訪れていただけるようにという思いで立ち上げたプロジェクトでございます。おみちようランチですとか、その後、少しは展開したんですが、今確かにご指摘のように若干ちょっと忘れかけられとるような一面もございますことから、また、観光部局のほうでも、まだまだこれから新幹線の2段ロケット式にまた盛り上げていく必要もございますので、その辺を今思い出させていただいたと思っておりますので、大変ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

このおみちようプロジェクトに関しましては、糸魚川信用組合さんの窓口で時々、声かけをされておりますし、感じるどころがございます。よろしくお伺いしたいと思います。

それから3番目の市歌、市の歌でございますけども、制作と制定について。

先ほどのご答弁もございましたけども、実際、ウィキペディアによりますと、新潟県内20市のうち11市で市歌が制定されてる。されていない市でも、市を代表するようなご当地ソングがあるというふうなことですね。ちなみに今、上越市、妙高市は、合併後に新たに設定されていると。改めていかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

妙高市、上越市にそれぞれお話を聞く機会を得ました。上越市につきましては、庁舎の始業時に市民の歌を流してるそうです。それ以外にホームページの掲載ということで、それ以外はやってい

ないというお話を聞いております。妙高市につきましては、防災無線のチャイム、電話の保留音で流す。また、市のイベント時のバックミュージックで流しているほか、ホームページの掲載をしていると。作成時には学校にもCD等を配付していたが、現在ちょっと活動が停滞しているかなといった話であります。

当市におきましても、防災無線におきまして夕方5時に相馬御風を親しんでいただこうと季節ごとに春よ来い、あるいはカチューシャの唄等を流しておりますけども、今後も当地域にゆかりのある名曲の普及促進に努めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

非常に残念です。上越市、それから妙高市の市歌を聞いてみたんですが、非常にすてきな曲なんですね。ですから、もっとやっぱり活用すればいいと思うんですけども。

先ほどおまんた祭り、おまんたばやしの話も出ましたけども、このおまんたばやしというのは、どんな経緯で作成されたのか、参考までにお聞きしたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

おまんたばやし、おまんた祭りにつきましては、市史の昭和編にも出ておりますが、その中で文書でいきますと、糸魚川青年会議所が、旧糸魚川町内の4つの神社の祭りを一本化できないかということに端を発しまして、市民総参加の祭りを誕生させようと市民に訴え、賛同の輪を広げていったということでありまして、4万人が集まって、おまんた市を開いたり、今も続いておりますけども、おまんた祭りをやっていくといった中で進めているところであります。

いずれにしても基本的な考え方は、地域住民の全市的な連帯感であったり、郷土に対する愛着心、糸魚川を遠く離れた人たちのふるさとへの郷愁といったものを促そうという中で、おまんたばやしが出てきたというように思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

現在、愛唱されております郷土民謡といいますか糸魚川の郷土の愛唱歌、先ほどからもいろいろ挙げられてるんですが、どれぐらいあって、どんなときに愛唱されてるかというのを整理はされておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

先ほど市長の答弁の中にも親知らず子知らずとか、大糸線といったようなものがあります。親知らず子知らずにつきましては、かつて中学校、青海地域の中学校の合唱曲として歌われてたということで、うちの職員に聞きますと、30以上の職員はみんな歌えるといった状況であります。

一方、大糸線になりますと、これは演歌でございますので、カラオケボックスの中で歌っているといたことが多いかと思いますが、全体でどれだけあってというのは、現在全てを把握してはございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

この市歌というのは、糸魚川市の一体感の醸成、それから市民のふるさと意識の高揚とか、糸魚川市のイメージアップを図るという点で、非常にわかりやすく、しかもいつでも気軽に個人で親しめるという効果が期待できるんで、市長いかがですか、これやっぱり15年、市歌をつくりましょう、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に私も一体感をつくるには、この市の歌というのは、効果があると思っております。

しかし、本当に旧1市2町のやはり町の中には、しっかりとふるさとの歌が残っておるものですから、みんながやっぱりイメージは歌のところに行ってしまうのかなと思っております。本当に旧青海の歌も、非常に市民の中に浸透いたしておりますし、また、能生の皆様におかれましても、弁天岩を中心とする歌が結構あって、歌っておられる。糸魚川には糸魚川に大いにまた、おまんたばやしがあったり、また、相馬御風の歌も結構歌われて、どれもみんな大事ではあるし、またその中でもう一つということになってくると、果たして市民の皆さん、わかったと言ってくれるのかなというような、ちょっと不安な部分があります。みんなまとめて1つの歌にしたいなぐらいに考えるものでありまして、一番やはり市民憲章や市の歌というものも本当に大事だなと思っております。みんなに若い人から年配の方まで、みんなが愛着を持って市の歌として受け入れてくれるというのは、本当にいいのはわかるとるんですが、どうやって進めるかなというと、ちょっとやっぱりじくじたるものがございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

市長の欲しいという意識は、伝わりました。

最後になりますけども、市民憲章も各種宣言に関しましても、もっとやっぱり市民に活用していただいて、市民のものにしていただくためにも、現在スマホ社会といいますか、動画社会にもなっておりますので、額に入れて公共の場所に掲げるだけではなくて、市民の手元に身近にあるというようなことも考えてほしいというふうに思いますが、その辺最後ですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺成剛君登壇〕

○総務課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、看板なりポスターという形でやらせていただいておりますが、今、スマホといったご提案もありますので、それも含めながら、時代の変化に合った取組を進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。

○17番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。この分野においても、Society 5.0 社会に対応した在り方をお願いしたいと思います。

以上で終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

次に、佐藤 孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。〔7番 佐藤 孝君登壇〕

○7番（佐藤 孝君）

日本共産党の佐藤 孝です。

通告書に基づいて、1回目の質問をいたします。

1、働き方改革について。

(1) 会計年度任用職員について。

- ① 会計年度任用職員については、現職の臨時職員からの任用と公募も行っているようですが、どのような状況か伺います。
- ② 任用に当たって初任給の格付、昇給について伺います。
- ③ 再度の任用については、どうなっているか伺います。
- ④ 総務省マニュアルには「公務の運営においては、任期の定めのない常勤職員を中心とするという原則を前提とすべき」、こう書かれております。会計年度任用職員制度の施行に当たって、このことが検討されたか伺います。
- ⑤ 平成30年度の12月定例会において、市長は、会計年度任用職員への移行時に、「臨時職員の給与を下げ、諸手当で調整するようなことは考えていない」こう答弁しております。